

	「令和 5 年版歯科医師国家試験出題基準」の 口腔外科関連新出用語	『最新口腔外科学 第 5 版』 第 6 刷参照頁および追加コラム，脚注																		
1	インターベンショナルラジオロジー	Interventional Radiology (IVR，画像診断的介入治療) X線診断学で使われる手技を治療に応用したもの。一般に全身麻酔は不要であり，外科手術と比較して侵襲が少ない。口腔外科領域での応用として，口腔癌の症例では血管造影法の手技を用いて腫瘍の栄養血管に直接抗がん剤を注入する超選択的動注化学療法が行われている。ほかに唾液腺造影法の手技を用いた唾石摘出術，顎関節腔造影法の手技を用いた関節腔洗浄療法なども行われている。																		
2	インプラント周囲炎	表の追加および 527 頁 表 4-1-16 インプラント周囲粘膜炎とインプラント周囲炎の比較 <table> <tr> <th></th><th>インプラント周囲粘膜炎</th><th>インプラント周囲炎</th></tr> <tr> <td>病態</td><td>可逆的</td><td>不可逆的</td></tr> <tr> <td>排膿</td><td>有</td><td>有</td></tr> <tr> <td>出血</td><td>有または無</td><td>有（顕著ではない）</td></tr> <tr> <td>骨吸収</td><td>無</td><td>有</td></tr> <tr> <td>動揺</td><td>無</td><td>骨吸収が大きいと有</td></tr> </table>		インプラント周囲粘膜炎	インプラント周囲炎	病態	可逆的	不可逆的	排膿	有	有	出血	有または無	有（顕著ではない）	骨吸収	無	有	動揺	無	骨吸収が大きいと有
	インプラント周囲粘膜炎	インプラント周囲炎																		
病態	可逆的	不可逆的																		
排膿	有	有																		
出血	有または無	有（顕著ではない）																		
骨吸収	無	有																		
動揺	無	骨吸収が大きいと有																		
3	インプラント周囲粘膜炎	〃																		
4	嚥下スクリーニング質問紙	質問紙法 (swallowing questionnaire) 質問項目に対する回答を被検者自身で記載してもらう方法である。質問紙には「EAT-10」「ぜいれいしき聖隷式嚥下質問紙」が広く用いられている。日常臨床で簡便に使用できることから，摂食・嚥下障害の症状の有無を診断する上で有用とされている。しかし，被検者が質問項目を理解することが困難な場合には，検査結果の信頼性は確保できない。																		
5	下顎運動検査	82 頁																		
6	画像診断的介入治療（インターベンショナルラジオロジー）	「インターベンショナルラジオロジー」参照。																		
7	感覚検査	74，75，413 頁「知覚検査」を感覚検査に統一する。																		
8	基底細胞母斑症候群＜母斑性基底細胞癌症候群，Gorlin 症候群＞	281，282，283，462，466 頁																		
9	巨赤芽球性貧血	247，259 頁																		
10	菌交代症	188，211，246 頁，初出 188 頁のみ「菌交代現象＜菌交代症＞」とする。																		
11	クレチン病＜先天性甲状腺機能低下症＞	121，122，125 頁「クレチン病＜先天性甲状腺機能低下症＞」とする。																		
12	血圧上昇・低下	19，29 頁																		
13	好塩基球活性化試験	好塩基球活性化試験 患者血液から分離した好塩基球を薬物（アレルゲン）で刺激し，好塩基球の活性化マーカーである CD63 と CD203c の発現をフローサイトメトリーで解析する方法である。																		

	「令和 5 年版歯科医師国家試験出題基準」の 口腔外科関連新出用語	『最新口腔外科学 第 5 版』第 6 刷参照頁および追加コラム，脚注
14	口腔癌	9, 60, 296, 298, 304, 306, 308, 312, 314, 342, 360, 575, 776, 778, 798 頁
15	口腔灼熱症候群<burning mouth syndrome>	431 頁「舌痛症」を参照．「舌痛症」を「舌痛症 glossodynia<口腔灼熱症候群，burning mouth syndrome : BMS>」とする．
16	口腔心身症	431 頁「歯科心身症<口腔心身症>」とする．
17	口腔セネストパチー	431, 433 頁
18	口腔潜在的悪性疾患	223, 294, 362, 363, 449 頁
19	硬結	21, 35, 64, 75, 181, 207, 210, 233, 234 頁
20	口臭症	42, 81, 434 頁
21	口唇閉鎖力検査	口唇閉鎖力検査 専用の測定器を用いて口輪筋活動による口唇の最大閉鎖力を測定するもの．リップデカム TM ，りっぷるくん TM などの検査機器がある．
22	抗微生物薬	抗微生物薬 微生物（細菌，真菌，ウイルス，原虫，寄生虫など）に対する抗微生物活性をもち，感染症の治療や予防に使用されている薬剤の総称．
23	誤嚥性肺炎	645 頁
24	骨造成術	硬組織関連手術 主にインプラント治療を前提とし，さまざまな方法および材料を用いて水平的（幅），垂直的（高さ）に骨量を増やす外科手技を骨造成術という．生物学的に骨細胞の増加を伴う骨組織の増量を特に骨増生とよぶ．
25	骨肉腫	350, 457, 811 頁
26	サルコイドーシス	177, 250, 386 頁
27	三叉神経ニューロパチー	有痛性三叉神経ニューロパチー 三叉神経の 1 枝以上の神経領域に生じる顔面痛で，通常は持続性またはほぼ持続性で，焼け付くようなあるいは絞られるようなと表現される痛みであり，三叉神経痛とは区別される．ほかの疾患による神経損傷が原因と考えられている．有痛性三叉神経ニューロパチーに分類される代表的疾患を以下に記す．
28	歯科恐怖症	435, 603 頁「歯科治療恐怖症」参照．
29	歯科心身症<口腔心身症>	431 頁「口腔心身症」参照．
30	色素沈着	34, 118, 243, 282, 355, 469, 470 頁
31	支持療法	644, 778 頁
32	ジスキネジア	428, 437, 451, 547 頁

	「令和 5 年版歯科医師国家試験出題基準」の 口腔外科関連新出用語	『最新口腔外科学 第 5 版』第 6 刷参照頁および追加コラム，脚注
33	ジストニア	396, 406 頁
34	重症筋無力症	430, 593, 632 頁
35	手術部位感染<SSI>	「SSI」参照.
36	食思<食欲>不振	18 頁
37	褥瘡性潰瘍	38, 149, 214, 215, 234 頁
38	進行性下顎頭吸収（特発性下顎頭吸収）	「特発性下顎頭吸収」参照.
39	心的外傷後ストレス障害<PTSD>	心的外傷後ストレス障害 （post traumatic stress disorder : PTSD） 事故，災害，犯罪被害など非常に強い心的外傷（トラウマ）後に，その体験の記憶が自分の意志とは関係なく何度も思い出され，フラッシュバックの発作が続き，過覚醒にもかかわらず辛さのあまり現実感がなくなったりする．外傷体験後しばらく経ってから発症し，未治療でも約 30%の患者は完全回復するが，10%は全く改善しないか増悪する．
40	腎不全	27, 30, 54, 55, 249, 547, 592, 611, 675 頁
41	推算糸球体濾過量<eGFR>	$eGFR = 194 \times \text{血清 Cr}^{-1.094} \times \text{年齢}^{-0.287}$ （女性の場合は $\times 0.739$ ）
42	睡眠時筋電図検査	睡眠時筋電図検査 近年，睡眠時の状態を評価する検査として，睡眠時ブラキシズムを評価する睡眠時筋電図検査（生体検査，wearable test），および薬剤で睡眠状態を誘発して気道の狭窄，閉塞部位，その状況などを検査する薬剤誘発性睡眠内視鏡（drug induced sleep endoscopy test）などが行われるようになってきた．
43	生体染色法	312, 777 頁，初出 312 頁のみ「生体染色<生体染色法>」とする．
44	脊髄損傷	452, 480 頁
45	摂食嚥下の 5 期	632 頁
46	セメント質骨形成線維腫	303, 325 頁
47	セメント質骨性異形成症	303, 337 頁「骨性異形成症」と同義.
48	先天性風疹症候群	先天性風疹症候群 妊婦が風疹に罹患すると，風疹ウイルスは胎盤を通過して胎児に感染し，特有の臨床症状が出現する．臨床症状としては白内障，先天性心難聴が三大症状である．その他，色素性網膜症，小頭症，精神発達遅滞などがみられる．
49	躁うつ病（双極性障害）	439 頁
50	創の管理	506 頁「創傷処置法」参照.
51	適応障害	適応障害 （adjustment disorder） 原因となるストレスが明確で，気分の落ち込みや不安，動悸や呼吸困難や素行障害（人や動物に危害，物を壊す，盗みなど）などが生じる．内科的・外科的疾患のために入院中の患者にしばしば見受けられる．予後が総じて良好で，多くは 3 か月以内に元の状態に回復する．

	「令和 5 年版歯科医師国家試験出題基準」の 口腔外科関連新出用語	『最新口腔外科学 第 5 版』第 6 刷参照頁および追加コラム，脚注
52	特発性下顎頭吸収	特発性下顎頭吸収 分類困難な顎関節疾患として特発性下顎頭吸収（進行性下顎頭吸収）がある．原因不明の下顎頭の吸収を短期間に生じる後天性疾患で，前歯部の開咬を生じることがある．
53	脳性麻痺	479, 633 頁
54	白色海綿状母斑	243 頁
55	橋本病	62, 179, 184, 592 頁「慢性甲状腺炎＜橋本病＞」とする．
56	発音障害	160, 196, 277, 428 頁
57	発熱性好中球減少症	発熱性好中球減少症 （febrile neutropenia ; FN） がん薬物療法の有害事象として，骨髄抑制を生じ，好中球数が減少すると原因不明の発熱をきたすことがある．一般的に①好中球数が 500/ μ L 未満，または 1,000/ μ L 未満で，48 時間以内に 500/ μ L 未満に減少すると予測される状態で，かつ②腋窩温 37.5℃以上（口腔内温 38℃以上）の発熱を生じた状態を発熱性好中球減少症と定義している．同症と診断された場合は，患者個々の状態や背景を考慮して早期に適切な抗菌薬を投与することが重要である．
58	パニック障害	437 頁
59	歯の形成不全	117, 468 頁
60	パンデミック	パンデミック 感染症が国境を越えて広がり，複数の国や大陸に拡散して同時流行した状態．
61	皮下気腫	35, 156, 170 頁
62	副甲状腺機能低下症	73, 468, 469 頁
63	不整脈	19, 29, 72, 473, 591, 601, 626, 659 頁
64	平滑舌	248, 450, 469 頁
65	哺乳障害	127, 134, 658 頁
66	母斑性基底細胞癌症候群	281, 282, 283, 462, 466 頁「基底細胞母斑症候群＜母斑性基底細胞癌症候群，Gorlin 症候群＞」参照．
67	ポリファーマシー	ポリファーマシー （polypharmacy） 治療に不要な処方，重複処方や過量処方を含めて服用薬剤数が多く，それらに関連して薬物有害事象のリスクが増加し，服薬過誤や服薬アドヒアランスが低下するなどの問題が増加することをポリファーマシーという．高齢者においては，薬物有害事象増加の一因とされ，処方内容の適正化が求められ，調剤と医薬品情報の一元管理が課題となっている．
68	麻薬性鎮痛薬	551, 602～618 頁の「麻薬」は「麻薬性鎮痛薬」に変更．
69	慢性甲状腺炎＜橋本病＞	179, 184, 592 頁「橋本病」参照．
70	免疫チェックポイント阻害薬	356, 556, 814 頁

	「令和 5 年版歯科医師国家試験出題基準」の 口腔外科関連新出用語	『最新口腔外科学 第 5 版』第 6 刷参照頁および追加コラム，脚注
71	溶血性貧血	179, 257, 259, 546 頁
72	Basedow 病<Graves 病>	58, 184, 592 頁
73	burning mouth syndrome	431 頁「舌痛症」, 「口腔灼熱症候群<burning mouth syndrome>」参照.
74	CKD	662 頁
75	eGFR	「推算糸球体濾過量<eGFR>」参照.
76	Epstein 真珠	上皮真珠 幼児の歯肉嚢胞に類似したものとして，口蓋突起癒合部に封入された遺残上皮に由来する Epstein 真珠や，口蓋線に由来し口蓋に散在する Bohn 結節があるが，これらを一括して上皮真珠という場合がある.
77	Fordyce 顆粒（斑）	34, 125, 215 頁
78	GERD（胃食道逆流症）	72, 447 頁
79	Gorlin 症候群	281, 282, 283, 462, 466 頁「基底細胞母斑症候群<母斑性基底細胞癌症候群，Gorlin 症候群>」参照.
80	Graves 病	58, 184, 592 頁「Basedow 病」参照.
81	HAE<遺伝性血管性浮腫>	27, 181 頁
82	Hansen 病<ハンセン病>	177, 208 頁「ハンセン病」は「Hansen 病<ハンセン病>」に変更.
83	HLA 検査	64 頁「組織適合検査」参照.
84	HLLT	HLLT と LLLT レーザー治療は出力の違いにより，出力の高い高反応レベルレーザー治療（HLLT），出力の低い低反応レベルレーザー治療（LLLT）に大別される．HLLT は切開，蒸散・凝固などに使用され，LLLT はアフタ性口内炎の疼痛緩和に使用されている． なお，頭頸部癌の放射線治療による口腔粘膜炎に対する LLLT の有用性が国際がん支持療法学会の臨床診療ガイドラインでも提言されている.
85	IgA 血管炎	IgA 血管炎 （アレルギー性紫斑病） IgA 型免疫複合体が全身の細小血管に沈着することで炎症が生じ，下肢を中心に皮膚に紫斑がみられ，関節痛や腹痛，下血などの消化管症状，腎障害を合併することがある．全身性の小型血管炎であり，血液自体に異常がある疾患ではない．Henoch-Schonlein 紫斑病ともいわれていた．原因として溶連菌感染が先行することがあり，4～7 歳の小児に好発し一般的に予後良好であるが，腎不全に至ることもある.
86	LLLT	「HLLT」参照.
87	Mucicarmin 染色	Mucicarmin 染色 粘液産生細胞の同定には Mucicarmin 染色が有用である.

	「令和 5 年版歯科医師国家試験出題基準」の 口腔外科関連新出用語	『最新口腔外科学 第 5 版』第 6 刷参照頁および追加コラム，脚注
88	PCR 法	PCR (polymerase chain reaction, ポリメラーゼ連鎖反応) 検査 1985 年に Mullis によって考案された DNA の増幅法である。PCR 法はクローニングを必要とせず，DNA ポリメラーゼ酵素を用いて，鋳型 (template) 二本鎖 DNA のセンスおよびアンチセンス鎖にアニールした一対のプライマー間を <i>in vitro</i> で複製する酵素反応である。歯周病では主に <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i>, <i>Prophyromonas gingivalis</i>, <i>Tannerella forsythensis</i>, <i>Treponema denticola</i> および <i>Prevotella intermedia</i> などを PCR 法で検査することが多い。 従来の培養法に比べてごく少量の DNA を短時間で大量に複製することができ，その結果特定の DNA 領域をもった細菌が存在するかどうかを比較的短時間で判定することができる。培養困難な菌でも検査することはできるが，死菌であっても PCR 検査では陽性となる。細菌ばかりでなく，ウイルス検査にも幅広く用いられている。肝炎ウイルス検査は血液を検体として用い，DNA ウイルスである B 型肝炎ウイルスの HBV 核酸定量検査では DNA を増幅し PCR 検査を行い，また RNA ウイルスである C 型肝炎ウイルスの HCV-RNA 定量検査では RNA を逆転写 (reverse transcription ; RT) し，cDNA に変換してから増幅する RT-PCR 検査を行っている。COVID-19 の原因である SARS-CoV-2 は RNA ウイルスであるので RT-PCR 検査を行っている。PCR 検査は，医学，薬学のほか，遺伝学，DNA 鑑定，考古学など幅広い分野で行われている。
89	Polymerase Chain Reaction 法	「PCR 法」参照。
90	PTSD	「心的外傷後ストレス障害」参照。
91	SSI	SSI (surgical site infection, 手術部位感染) 患者因子，手術因子，微生物因子が関連する。
92	TNM 分類	304, 306, 308, 309, 361, 813 頁